

昨年、海洋教育フォーラム（今年度は海洋教育子どもサミット）に参加した児童の作文を紹介します。

「努力した後の楽しさ」

わたしは、4年生まで、人前に出たり、自分から発言したりすることが苦手でした。しかし、様々な経験から、自分の考えを伝えたり、一生懸命努力して表現したりすることは、楽しいのだと実感することができました。（中



略）5年生の時、海洋教育フォーラムがありました。わたしたちは、「松輪サバ」について学んだことを、他の学校の人たちに発表することになりました。わたしは友だちに誘われ、上小の代表として参加することにしました。実際に見た「松輪サバ」の輝きやおいしさ、そして一本釣りの素晴らしさなど、ぜひ多くの人に知ってもらいたいと思いました。一本釣りの



技を実際に見せたり、サバのキャラクターを作ったり、楽しんで見てもらおうと色々な工夫をしました。

本番が近づくにつれ、緊張感もわいてきました。最初は何となくの気持ちでセリフを読んでいたのですが、伝えようという気持ちが大切だと思い、家でも必死に練習しました。そのおかげで、自信をもって本番を迎えることができました。



しかし、いざとなると緊張で心臓がバクバクでしたが、終わった後、見ていた人たちがニコニコしながら、たくさんの拍手をしてくれました。その時、わたしは、一生懸命努力し、表現したことが伝わると、こんなに気持ちがいいのだと初めて実感しました。

このような経験から、わたしは、自分の考えを伝える楽しさ、自分が努力した時に感じる本当の楽しさの意味を知りました。この経験を生かし、これからもいろいろなことに挑戦していきたいと思います。



1月29日（水）に、南下浦中学校で、海洋教育研修会兼みうら学研究会代表授業が行われました。

菅野先生による英語の授業で、子どもたちがタブレットを活用して、グループごとに、三浦の名所についてのクイズを英語で作る、という内容でした。



授業後の協議会では、今後のみうら学や海洋教育のあり方について、熱心な話し合いが持たれました。講評は、国立教育政策研究所の五島先生にお願いしました。

（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで